

・・・雨でも休まず、228回、229回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、1月 5日（第一土曜日）：小原本陣の森、若柳嵐山の森

昨年が無事を感謝、本年の実りある活動を祈願する。

若柳の森で正月を祝う、オセチの残りを持っておいで。

定例活動2、1月20日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動

午前：鈴木様に新年の挨拶、神事の軽作業。

午後：地域との交流を深めるため「小原町内会」合同新年会。

於・五本松。参加費4000円、女性・学生3000円。

・初参加：9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ

・服装：汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元

・持参品：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、

・注意：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

共感と信頼と・・・、NPO活動の真髄は何か。

活動10年を経過して最近、しきりにNPO活動のキーワードは何かを考えています。使命感・情熱・・・、公共性・先駆性・公開性・社会性・継続性・公平性・・・。

社会制度の矛盾の気付いた人が、これを是正すべきだと非常な使命感と情熱をもって、あらゆる技術を屈指し、これを解決しようと取り組みます。然し、何か足りなくて解散に追い込まれます。何が足りないか。過日、学生たちが「何故、ボランティア活動をするか」を議論していました。その中に“共感・信頼”と言う発言がありました。“共感・信頼”・・・、この言葉に感ずる所があり、突き詰めて考えています。“自分も参加したいが諸般の事情で参加できない。参加できないが、せめて活動資金支援だけでもしよう”。そう思われるような活動とは何でしょうか。

共感：活動内容だけでなく、その団体の雰囲気と言うのはどうでしょうか。

いささか抽象的ですが雰囲気とは、その活動を進める団体に暖かいものを感じる。

即ち、情感に訴える優しさとか、楽しさとか、思いやりとか・・・。

一般に言う“ソフト領域：情感”に属する諸条件を満たす事ではないでしょうか。

信頼：前記の公開性（公平性）・先駆性・社会性・継続性、いわゆる“ハード領域：技術”に属する活動であり、活動自体が“納得・信頼できる”と言う技術的な側面のように感じます。

「信頼に裏付けられる共感」・・・、これが「NPO活動の真髄」と言うのはどうでしょうか。

（石村記）

小原本陣の森・定例・活動報告：12月 1日（第一土曜日）

Forest Nova、望星高校を含め14人参加、冷え込む快晴。

相模原市と話が進んでいる「明王峠～大久保沢～小原の郷：下山路」開設ルート調査班（川田・加藤・石村）、林道行き止まりから共有林尾根を登る作業路・径路建設班（斉藤・佐々木さん他11名）と2班を編成して取り組む。

- 1、ルート開設班：共有林入り口から尾根を辿って遮二無二、頂上孫山に向けてルート開設テープをマーキングしながら登る。頂上到着には2時間経過して、12時に到着。頂上は、蜜蝋の薄暗い杉植林地。眺望もない何もない放置林の見本。昼食後、マーキングテープを辿って下山。
- 2、作業路径路開設班：斉藤・佐々木会員を指導員にして、沢に架けた共有林入り口・丸木橋を渡って、そこから作業開始。先ず、荒れまくったやや平らな軟斜面の藪払い。もう、本当に荒れまくっていると言う状態で、腐った倒木はある、蔓は巻きつく、足場は悪い。が、学生たちは元気浚刺。午前の作業で入り口付近の荒地は平坦に整地された。
 - ・ 午後、斜面・作業路径路の設営に取り付く。そこで、斉藤会員の指導は・・・、「工事は出来るだけ現地材料の倒木や石を使うこと。土留めのための材料を設置したら、木の枝を敷いて土を入れること。土を直接、入れたら雨が降れば流されてしまう。ここに草が生えれば、木が腐っても土の流失は防がれ、路が維持される」

冬の森は、早く陽が落ちる。作業の3時過ぎには手元も暗くなる。気温も急激に下がる。3時15分、「作業止め～、終了！」の声をかけるにも、「もう、チョッとだけ～」と夢中になって作業を継続している。結局、山を下ったのは、足元も薄暗くなった4時半頃。

* 生態系調査：11月30日（金）

当会は荒廃の進む森林の保全・再生に取り組んでいるが、その名の下に森林破壊に繋がることをしてはいないか。これをチェックする機能として、FSC（国際認証：森林管理協議会）もSGEC（国内認証：緑の循環会議）もモニタリング（生態系変化調査）を求めている。そこで、小原本陣の森整備に取り組むに当たって、整備前の植生調査に取り組むことをした。この日まで2回、大久保沢沿いと新たに取り組む共有林経路沿いに調査してきた。30日のこの日は、西斜面（孫山・本陣尾根）のとつき箇所から内野指導員・川田・石村で急斜面を調査しながら掻き登ることとした。

取っ付きの針葉樹林はまだしも、尾根の尾部分からのブッシュ急斜面は正に「掻き登る」で、調査をしながらの登坂はイササカの難業、茨はある倒木はある、崩壊地はあるで約1時間のアルパインは、息は切れる喉は渇く汗が噴出す。尾根鞍部に出ると意外や意外、協力協約の下草刈り地は明るい針葉樹林であった。孫山の頭、孫山頂上、経路敷設予定の共有林尾根を下って調査は完了。冬山ながら凡そ、550種の植物のあることを確認した。東尾根（名付けて、美女谷尾根）は未だ、手を付けていない。

* 相模原市・プレスリリース：小原宿活性化計画 孫山現地踏査を実施

12月8日(第二土曜日)相模原市と上記を協働踏査した。行政が報道機関に発表する“プレスリリース”と言うのを聞いたことがあるが、その実物を入手したので以下に転載する。



相模原市・職員に地形を説明する

1、趣旨 小原宿活性化計画の推進の為に、小原地区の住民を中心に設立された小原宿活性化会議では、今年から6つのリーディングプロジェクトに取り組んでいます。

その1つである「孫山周辺景観整備プロジェクト」は、小原地区の回遊の魅力の向上を目指し、現在、花の名所づくりや小原本陣の北側の孫山(標高547.2m)への散策ルートを検討するため、プロジェクトメンバーによる現地踏査が行われました。

2、参加者 地区住民、相模湖を中心に森林整備などの活動を行うNPO法人緑のダムメンバー、市職員 計10名

3、日時等 平成19年12月8日(土) 午前10時から午後4時まで

4、概要 小原の郷から孫山(標高547.2m)、子孫山の頭(標高542.8m)を經由し、小原の郷に戻る約3kmのルートを踏査しました。

小原の郷から暫らくは緩やかな林道を辿りましたが、その後は現在NPO法人緑のダム北相模が山林整備を行っている植林帯の急斜面を歩行し、出発から凡そ1時間30分で孫山の山頂に到着しました。山頂はスギの植林により眺望は開けておらず、景観伐採が課題であることを確認しました。

山頂からは既設のハイキングルートにより子孫山の頭に向かい、昼食・休憩の後、木立の間から右手に相模湖を、左手に小仏城山や景信山を眺めながら小原方面に下山しました。小原方面への下山は途中まで既設のハイキングルートを利用しますが、相模湖駅方面との分岐点からは、藪の中を進まねば成らない状態にあり、ルート整備の必要性を確認しました。

踏査の結果、歩きやすいルートの選定と、全般的な眺望の悪いために景観伐採が必要のある事を課題にして確認し、今後のプロジェクトの中で検討していくこととなりました。

また、相模湖から小幡地区や千木良地区まで一望できる眺望スポットや江戸時代の明和年間(約230年前)に建立された石づくりの祠(ホコラ)を発見し、今後の活用を検討する事となりました。

若柳嵐山の森・定例・活動報告：11月18日(第三日曜日) 報告 伊藤 小夜子

「癒しの森に感謝!の一年」

冬の冷たいけど澄んだ空気、朝の森に響く鳥のさえずり、今年最後の活動日も快晴!。新しい団体「生命の森宣言東京：13名」、県募集2名、日大森友3名、学生連合Forest Nova 9名、日大・森林資源科学科桜井教室34名、一般16名、計77名。

・森の体験学校には「生命の森宣言グループ」が初参加。森に歩く姿は整然と頼もしく、森に対

する真剣な想いが感じられる。ご案内の斉藤・林コンビも阿吽の呼吸。

“望星の森”では「協賛企業から頂いた急斜面に根を張る栃苗は、育ちが良く葉も大きく落葉は良い肥料になります。50年100年計画の森を考えて将来、どのように活用するかによって管理方式も変わります。従って、シッカリしたVISIONが求められます」と専門家・林会員の説明だ。

傍に立つソバ百合がドライフラワー状態で立ち、一振りすると種子が雫のようにハラハラと零れて行く。その形状はニンニクスライスにそっくり。何んだか自然の神秘を感じさせる一瞬。

森は四季折々、毎年・毎月・毎日、その顔を変えて行く。何んでこんなに人の心・体を癒してくれるんだろう。落葉の絨毯を踏みながら“もっと、森に足を運ぼう”と改めて森に感謝！

- ・花畑班は、少数精鋭！、腐葉土を作るために落ち葉を集めに励む。純白とうっすらピンクの薔薇が、“ホッ”と心を慰めてくれる。
- ・森の入り口整備班は、先月刈った林床を片付ける作業に川田・吉田・Forest Nova 学生等。良い空気の中での作業は、寒さも忘れる。
- ・桜井教室の学生たちは、班に分かれて直向に真剣に造林実習に励む。



お昼の楽しみは、強力助っ人吉池さんと石村ママによる「茸とハルサメの中華スープ、味噌に漬けた柚子が一味違うフロフキ大根」。舌鼓を打つ。

今年最後の終礼では先月、山主さんから頂いた柚子をジャムにして、暖かい柚子ジュースで乾杯。佐々木さん提案の、「焼きたてホヤホヤ・焼き芋」をお土産に身も心も温かくなって帰路に付いた。

* 初参加報告

生命の森宣言東京 報告：平石 成男



「生命の森宣言東京」は、13名で初参加しました。新宿から1時間で東京近郊に、これほど豊かな自然があるとは驚きです。

午前中は、森を散策しながら植生、生態系、森林の保水性、治山作業、望星高校生の森を見学し、午後は、38年杉の間伐・伐採実習では、水を含む木の重さに驚かされ、木を伐る事が生あるものの生命を絶つ少し後ろめたい思いもしました。然し、こうして森を保護する意味

を理解しました。

成り行きに任せれば計算上は、あと数百年で森林が地球上から消滅と言われていますが、森林はわれわれ人間と同じ生命を持っており、森の自然によって人間は生かされている共存共栄の関係にあります。自然を守らずして人類だけが栄える事は不可能です。更に深刻な問題、地球温暖化がそれを物語っています。住んでいるところは小さくとも環境は、グローバルに考えなければ解決にならないことを感じました。また、あらためて自然の素晴らしさや大切さを実感し、今出来る事から環境問題に取り組んでいかねばならない。自然に触れる事で生物と一体の生命観を感じ、環境問題の解決も自然との繋がりで広めて行かねばならない事を実感しました。本研修がその機会を与えてくれた事を心から感謝します。

*** 造林実習：緑のダム北相模の活動に参加して**

日大・森林資源科学科 山口 春菜

今回参加して新たな発見が幾つかありました。

私は相模湖町に住んでいるのですが、地元で森林ボランティアの人たちが森づくりをしているのを知りませんでした。私は去年から、森林を学ぶために高尾山で森づくりに参加していますが、直ぐそばにこのような人たちがいる事を知って衝撃でした。



真剣に直向に・・・日大・森林資源科学科・学生

今回の作業は夏休みに行った計測学実習と同じだったのでスムーズに出来ました。だが、群馬県の平地林・水上の森とは違い、ここは急傾斜で足元が定まらず、プロットを作るのが大変でした。そして、下草刈の鉋が上手く使えず手間取ってしまい、もう少し上手に使えるようにならねばと改めて思いました。また、植生が繁茂し移動や距離測定にも手こずりました。胸高直径測定は全て測ることはできましたが、樹高測定は半分くらいの出来でした。毎木調査は樹種が分からないと話にならず、もっと知識を増やさねばならぬと反省しました。冬の森

では、木に葉がなく落ちている葉や樹皮から、樹種を判別できるようにならなければなりません。

今回の実習を終えて、地元の山や自然環境に付いてもっと知らなければと思いました。何より、地元の山でFSCの認証をもらえるような活動をしているとは！。しかも、ボランティア活動で認証を得たとは驚きです。

また近年、森林管理者は中高年が多く、担い手の育成が問題になっていますが、緑のダム北相模では、Forest Nova という学生団体が熱心に活動しています。そして他大学生同士が森林活動を通じて輪が広がって行くのは素敵な事と思います。

私も出来れば関わって、この活動に参加したいと思っています。今回はとても良い体験になりました。ありがとうございました。

名栗の森～泊りがけの遠征訓練～

報告：学生連合 Forest Nova 所属 加藤 浩晃

12月22、23日にかけて、僕ら Forest Nova は埼玉県の名栗の森へ行ってきました。

そこでは、名栗さわらび隊の瀧澤さんと井上さんから伐木の仕方を教えていただきました。具体的には「よりプロに近いNPOの伐木」ということで、チルホールドを使わず、純粹に技術によって倒したい方向に木を倒す練習をさせていただきました。

今まで嵐山でも何度か伐木したことはありましたが、その程度ではまだまだ実力不足、経験不足であることを実感しました。

22日の夜は市議会議員でいらっしゃる柏木さんのお宅に泊めさせていただきました。そこでは、木を倒すという行為に対して今まで聞いたことのないような考え方を瀧澤さんから教えていただいたことで、新たな価値観に触れることができたのではないかと思います。



作業の様子



瀧澤さんのお話を聞く女性陣

エココン～全国大学生環境活動コンテスト～

報告：学生連合 Forest Nova 所属 加藤 浩晃

12月26、27日の二日間、参宮橋駅から程近いオリンピック記念青少年総合センターにて行われた、「全国大学生環境活動コンテスト」というイベントに出場します。これは文字通り、日本全国で活動している大学生が集まり自分たちの環境活動を発表するコンテストです。

僕らはここで、今までの活動を自分たちなりに洗練して発表します。



今回はエココンに出場することによって Forest Nova を全国の学生に知ってもらい、また、一緒に活動してくれる仲間を探すことが目的ですが、最優秀賞をとりにいく構えで準備に取り組んでいます。

この結果は、後日報告させていただきます。

こうして自分たちの活動を人に発表できるようになったのも、緑のダムの皆様に協力していただけただからだと思います。一年間有難うございました。

2008年も、どうぞ宜しくお願いします。

